

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

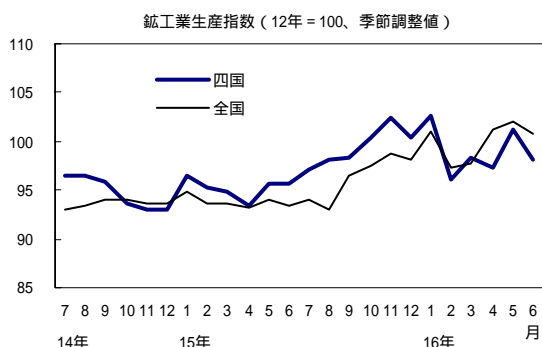
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年5月）	今回（平成16年8月）	
個人消費	おおむね横ばいとなっているが、持ち直しの動きもみられる	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

パルプ・紙は、包装用紙や雑種紙が増加したものの、印刷用紙や情報用紙が減少したため、全体でも減少している。食料品・たばこは、清涼飲料が横ばいであったものの、主力の冷凍調理食品に加え缶詰も減少したことから、2四半期連続の減少となっている。電気機械は、前期減少したリチウムイオン蓄電池やデジタルカメラなどが増加に転じたため、2四半期ぶりに増加している。化学は、中国・台湾向け繊維・樹脂原料の輸出は引き続き好調だが、主力の医薬品が減少したため、4四半期ぶりの減少となっている。一般機械は、中国向け化学繊維機械や中東向けの建設用クレーンが好調であり、金属工作・加工機械も増加していることから、2四半期ぶりに増加している。



（備考）平成16年6月の四国は速報値。

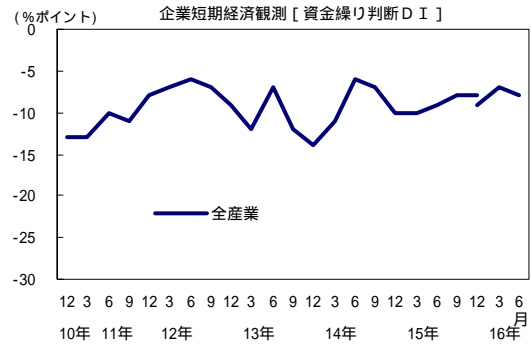
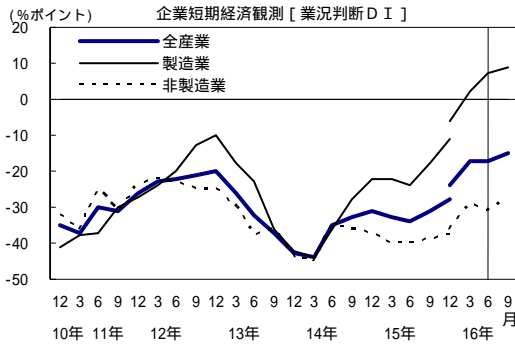
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
パルプ・紙	13.3	2.1	2.4	0.5	1.9
食料品・たばこ	13.3	3.3	6.1	9.8	1.3
電気機械	12.8	16.8	9.5	9.2	30.8
化学	12.7	5.3	2.9	6.2	16.5
一般機械	11.3	2.0	6.6	14.7	9.1
鉱工業	100.0	2.0	0.1	0.4	1.0

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

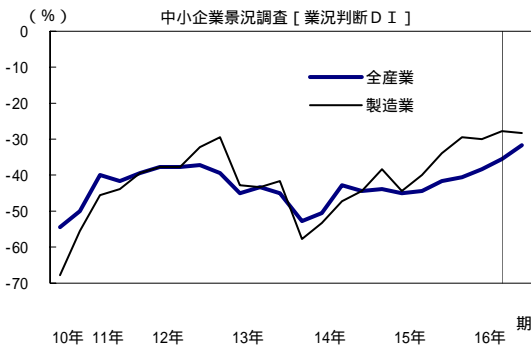
2. 4～6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「取引先の財務内容、あるいは収益の状況等を3か月前と比較すると、ほとんど変わらず、やや悪くなっている感じがする (公認会計士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

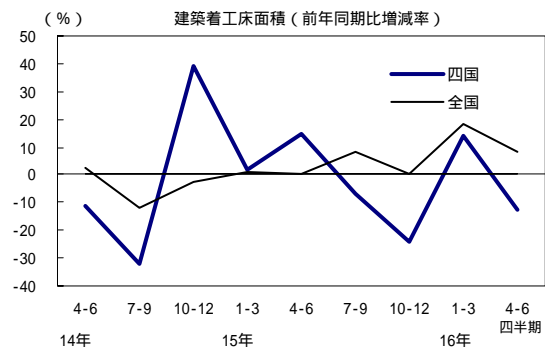
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	6.6[5.2]	10.3[7.1]
製造業	4.8[6.2]	5.2[0.7]
非製造業	7.7[4.5]	20.2[12.3]

(備考) []は前回(3月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

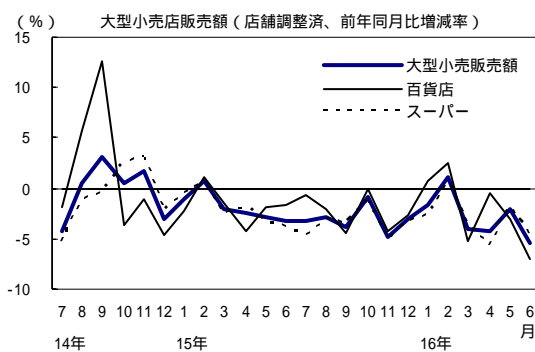
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は美術工芸品や宝石、貴金属などが好調だったが、主力の衣料品が低調だった。5月は物産展などの催事で飲食料品や家庭用品が好調で、紳士服にも動きがあったものの、婦人服の夏物が振るわなかった。6月は中元の早期受注が堅調だったものの、昨年に比べ日曜が1日少なく、また台風の影響やセール前の買い控えが出たことから前年を大きく下回り、四半期でも前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の7月の売上高は、前年同月比で3.0%減となっている。

スーパーは、季節商品が全般に伸び悩み、消費税総額表示や催事の減少の影響が出たため、4か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

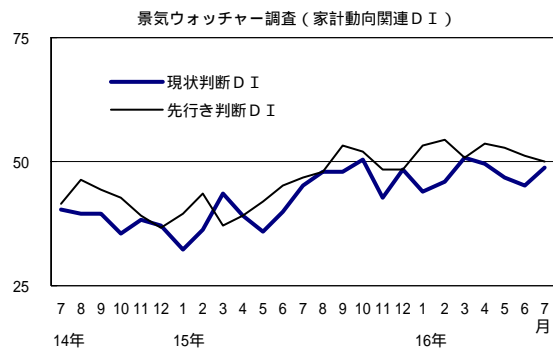
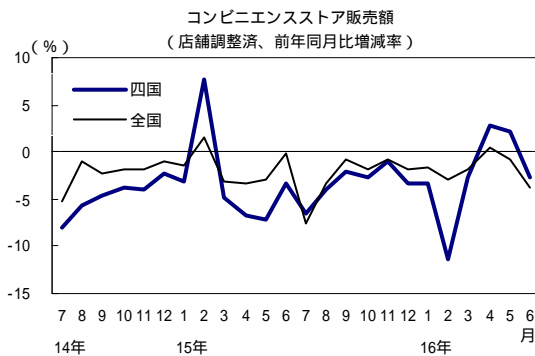
「来客数や販売量は変わらないが、猛暑によって売れ筋の商品がTシャツからタンクトップ、ジーンズからショートパンツへと変わったため、単価が低下している(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	3.3	3.0	1.7	3.9
百貨店	2.2	2.4	1.0	3.5
スーパー	3.7	3.2	2.0	4.1
コンビニ	4.3	2.4	5.8	0.7
景気ウォッチャー	47.0	47.2	46.9	47.2

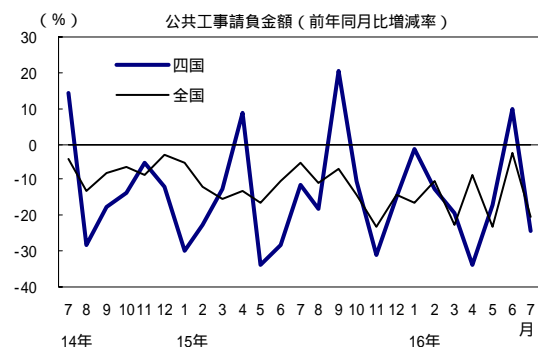
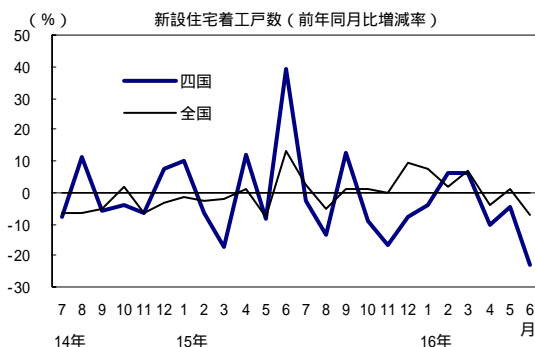
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

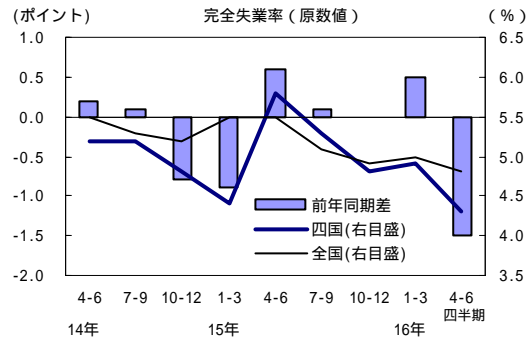
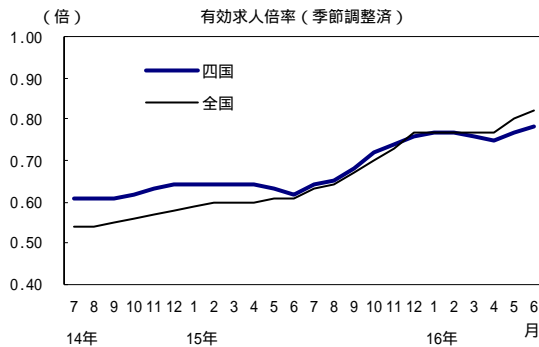


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

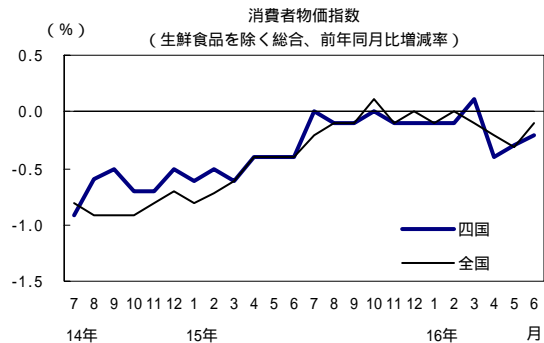
「パートを含む新規求人は、前年同月比で11.8ポイントのプラスとなったが、新規求職者も増加しており、有効求人倍率は前月と同じ0.49倍にとどまっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	115	89	106	90	36
(前年比)	20.1	40.3	12.4	39.6	10.0
負債総額	487	263	322	219	59
(前年比)	58.7	3.7	8.1	73.2	65.6



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今月は猛暑が続いたので、来客数が増え売上も予想より良かった。他店に聞いても同じような状況である(コンビニ)

<先行き>

・金利上昇の影響で、自己資金の少ない客がローンを組みにくくなっている状況であり、買控えが続く見込みである(住宅販売会社)

